



〈プロフィール〉
中山靖之さん 47歳
出身 那須烏山市
株式会社 荒川建設
代表取締役社長

地元愛にあふれる荒川建設

株式会社荒川建設は、創業昭和38年、社員数44名(令和2年11月現在)の建設会社。創業以来、那須烏山から移転せず、地元密着の企業として親しまれている。材木問屋の親会社が建設業や土木業に進出し、荒川建設を立ち上げた。

内訳としては、土木3割、建築7割。土木では県内や管内の公共事業のほか、太陽光の事業にも携わり、建築は商業施設や社会福祉施設(高齢者施設など)の建設を請け負う。建築のうち8割以上が民間工事で、公共事業が少ないのが特徴だ。県内の会社で、ここまで民間工事の割合が多い会社は少ないという。市内の物件は極力とるよう努力し、商業施設や工業施設は宇都宮まで手を広げている。事業のウエイトが商業系にあるため、住宅建築は積極的に行っていないが、地元なじみ客などの依頼は断らず、顧客とのつながりや仕事で得た縁を大切にしているそうだ。

仕事は盗んで覚えていくもの

那須烏山から宇都宮へ仕事に行く人は多いが、同社はこの逆のため、求人面では苦労しているようだ。新卒採用は、工業高校を中心とし

た高校生と大学生。中途採用は、2年に1人くらいで動きは小さい。面接で、いい人材かどうか判断し採用しているが、新卒で張り切りすぎる人は、燃え尽き症候群に陥り辞めてしまうケースがある。中途採用した従業員のほうが、辞めずに続いている。

「仕事は盗むもの、張り切ってはいけない」と社長の中山靖之さんは語る。入社前に準備したものや教科書で学んだことと、実際に仕事をするとものでは違う。そのため、入社前の事前の準備はさせない。仕事を覚え学びながら、自分で仕事が取れるようになるまで、社員一同でしっかりサポート。花が開くまでじっくりと待ち、社員の成長を見守っているのだ。

従業員の幸せを作る

中山さんは、「人生を幸せにするための家族と、人生を豊かにするための1つの道具であるお金が大事だ」と力説する。家族とお金がいっかりしていなければ、自分のやりたいことが出来なくなってしまうからだ。「人生は家族がいてこそ幸せだ」との信念を持ち、家庭と仕事の両立に課題を抱える従業員の働き方を支援している。通常の就業時間は8〜17時までのところ、10〜16時までの短時間勤務を導入するなど、働きたいという社員の意欲をバックアップ。

働き方改革のつじみ

2年前から働き方改革を行い、週休2日へと変わった。しかし、現場には工期があるため、雨が降ると土曜出勤になることもあり、休日振り替えることもある。そのため、有給休暇



の一齐取得や家庭の事情による社員の短時間勤務、水曜日をノー残業デーとするといった改革にも積極的に取り組む。「建設業は長時間労働や土曜出勤」という若者たちのイメージを少しずつ変えようとしている。また近年、公共工事では、一昔前と比べると工事の発注者も工期を長めにするようになっており、これは県の業界全体での働き方改革といえる。

現在のコロナ禍で困ったことは一つ。融資が下りなくなり、補助金の入る大きな仕事が多くなったこと。「だめだったら次の仕事をとってくればいい」と、社長はすでに次のことを考えている。緊急事態宣言中、事務員は在宅勤務で対応。現場は基本屋外なので問題なし。さらに、現場には工期があるため、在宅勤務やテレワークはできない。

建設業全体では、新型コロナウイルスの影響はほとんど出ていないそう。それは、現在の事業の多くが、去年の台風の影響による復旧工事で、土木工事が特に忙しいためだ。

担当 田村伊織